



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り、左の通表彰し關係地方廳に其の傳達方を依頼した。

岐阜縣

表彰狀一等功績章三ツ組木杯

岐阜縣修路工夫 高井新太郎

表彰狀二等功績章單杯

岐阜縣修路工夫 矢崎幸一郎

同

同 竹中初彌

同

同 林 晋 吉

同

同 森本利吉

◎新舊内務大臣の挨拶

四月二十日内務大臣が交迭し湯澤三千男氏の退職し安藤陸軍中將其の後任となられたので同月二十一日午前十一時全廳員を第一會議室に參集せしめ新舊大臣の挨拶が

あつた即ち湯澤前大臣は次官として四ヶ月大臣となつてから一年二ヶ月の長きに亙り決戦下の内務行政を大過なく勤めることの出來たのは皆様の御蔭であると廳員に對し支援の勞を謝して後任の安藤閣下とは北支で一緒に仕事をした非常に親しい友人である、安藤閣下は明朗瀟灑の性格を有せらる、私として此の友人が後任者として來られたことを喜ぶ私と同様皆様の御支援を御願ひすると述べ續い安藤新大臣は軍人としてキチツとした身構でしかし溫和な體度でよどみなく湯澤前大臣から友情溢るゝ御紹介をいたゝいて感謝に堪へません、前大臣の仰せられたやうに北支では長い間御一緒に働き入閣も一緒だつた、友人の椅子に私がつくといふことは何か感にたえないものがある、今湯澤閣下と御別れすることは愛惜の情禁し難いものがあります、私は軍人出身で内務行政に就いては何も知らないが大東亞戰爭を完遂する爲めには國內の行政は最も重大なものであり特に内務行政は尤も大切であります、生産力の擴充、戰揚精神の昂揚等一億國民の總力を集結して米英撃滅に邁進するためには國內に溫情ある適切な政治を行はねばならないと確信します、偏に皆様の御協力を御願ひする次第でありますと挨拶され山崎内務次官は廳員一同を代表して送迎の辭を述べられた。

◎内務次官、内務省警保局長警視總監及内務大臣秘書官四

月二十二日左の通交送せり

任 内務次官  
任 内務省警保局長  
任 警視總監  
任 内務大臣秘書官

唐澤 俊樹  
富山縣知事 村 村 金 五  
鹿兒島縣知事 薄 田 美 朝  
森 本 潔

内務次官 山 崎 巖  
警保局長 三 好 重 夫  
警視總監 吉 永 晴 次

依願免本官(各通)

◎橋田文部大臣の注目すべき訓示

橋田文部大臣は四月十三日の地方長官會議で、新學年度と共に發足をみた今次學制改革の趣旨ならびに文政當面の重要事項につき詳細な訓示を行つたが、この中で文相は特に

一、わが國教育の根本目的が皇國民の鍊成にある以上、教育をいはゆる立身出世主義の手段とするが如き從來の考へ方は斷乎改めるべきで、目下政府の企圖してゐる育英施設にしても、これによつて個人主義的自由主義的な機會均等主義を實現せしめんとするものではなく、一に人材の國家に對する重要性を考慮したためであること。

一、國體の本義に立脚せる國民思想の確立については、先づ青少年をして眞に國體の本義、皇國民の使命を體得自覺せしめなければならぬが、このことは單に學校教育のみでは十全の成果を

期し難く、政治殊に各般の行政の實際が、教育の本義と相呼應し、苟もその間に間隙を生ずることがあつてはならぬこと。

の二點を強調闡明し、征戰完遂、大東亜建設必成のための新教育制度運営の完壁を期することを要請した。

◎近刊圖書雜誌 (寄贈交換)

◎清和 (第一〇卷一、二號)

◎石油時代 (第七六九號三月號)

◎汎交通 (三月號)

◎大阪商工會議所月報 (三月號)

◎警察協會雜誌 (第五一四號三月號)

◎企畫 (第五卷五、六、七、八號)

◎都市公論 (三月號)

(東京都制と市制町村制改正案審議經過)

◎鐵道軌道統制會報 (三月號)

◎民族學研究 (第一卷二、三號)

◎大大阪 (第一九卷四號四月號)

◎河川 (第二卷四號)

◎自警 (二月號)

◎東大陸 (三、四月號)

(三田村武夫氏「我刑法と憲法問題」なぜ原案に反對したか)

○港灣 (第二二卷三月號)

○發送電 (第三卷三號)

○觀光 (二月號)

○土木滿洲 (第三卷一號二月號)

○水道協會雜誌 (第一一九號)

○土木學會誌 (第二九卷三號)

(草間偉氏) 大東亞戰爭と土木技術者の責任

○昭和十七年度土木技術研究所報告第二輯

(地盤沈下に關する調査報告)

○科學技術動員 (第二卷四號)

(南方建設と科學技術政策特輯號)

○都市問題 (第三六卷第四號)

(宮澤俊義氏地方制の改正について、宇賀田順三氏新なる自治構

成としての責任主義の確立)

○港灣 (第二二卷第四號)

○セメント統制會誌 (創刊號)

○土木雜誌 (三月號)

(世界各國の航空港解剖特輯)

○新民 (第三八編二、三號)

(三月號改正地方制度解説特輯)

○電氣通信學會雜誌 (第二四〇號)

○觀光 (第三卷三號)

○道路 (第五卷四號)

(田中喜一氏) 戰時下に於ける物資交流と道路交通、田邊治身

氏) 道路網の整備對策)

○發送電 (第三卷四號)

森野 心平

心なきて振りわける手かはかなくも汽車さ

へみえずなり行きにけり

住吉けい子

雨にぬれし庭木の中に楓の芽紅色さしてふ

くらみにけり

春日 紅露

春雨のそぼふる中を町葬の兄の柩は黙々と

進む